

「東北は負けない：歴史に見る弱者の逆襲」を読んで

原発事故の終息はまだまだ先のようなのである。

ふと考えると、福島原発の電力の恩恵に浴していたのは、東京を始めその周辺の大都会である。

更に考えてみれば、戦後の第2次産業による経済復興の担い手は、東北からの出稼ぎや集団就職による労働力あつてのことと云っても過言でないと思う。

東北は気候による冷害、凶作、冬季の雪というようなハンデがあつたにしても、表面的な国の繁栄の底辺部分を東北はどうしていつの時代も担わなくてはならないのかなあ、と疑問を抱いていた。

店頭で「東北は負けない～歴史に見る『弱者の逆襲』～」のタイトルの本を目にして、自分の疑問に答えてくれるヒントがあるのでないかなと、購読した。

筆者は地方新聞社の記者を経て、今は幕末維新史研究家として文筆活動に携わっているよう。

筆者は、大震災後の岩手、宮城、福島の津波被災地や原発事故による避難地区を何度か訪れてそのルポも記され、また、東京電力の原発が福島に設置された経緯についても触れていた。

筆者は幕末維新史研究家だけに、明治新政府が東北を冷遇した根拠として戊辰戦争を挙げている。

会津藩が東北の各藩と奥羽越列藩同盟を結んで薩摩・長州軍と闘ったが破れ、明治新政府の中核は薩長出身者が占めていただけに、敵軍であつた東北を「白川以北一山百文」とばかりに軽蔑・冷遇したとか。

その流れからか長年に渡り、国策としての社会的経済基盤と社会的生産基盤が東北では遅れたよう。

(一極集中型の国政のあり方に問題があるなら、最近よく話題にあがっている道州制の方がベターなのかな?? 道州制について、これからちょっと調べてみようと思う。)

云われてみれば確かに、新幹線、高速道路、大型船接岸の港湾整備等々のインフラ整備が整って来たのは歴史的スケールでみれば最近であり、仕事種のすそ野の広い自動車生産大企業が東北に進出して来たのは、ごく最近。

「さあ～、これからは東北の時代！」と思った矢先の大震災と原発事故……。

自分のネットネームは「デクノボー」だが、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」のような東北気質が、何よりの復旧、復興の原動力になるものと思っている。

負けるな！東北！